



＝令和7年度竜王小学校だより＝

竜の子

令和7年10月31日

No. 6

校長 松井 渉

一致団結～協力は勝利～

10月5日（日）、天候不良のため、順延となった運動会が開催されました。

「一致団結」とは、「大勢の人が心を一つにする」です。そのことをテーマに掲げ、子どもたちは練習を積み重ねてきました。当日は、子どもたち一人一人の成長した姿をご覧いただけたと思います。

本校の運動会の目的は「運動したり、表現したりする楽しさや満足感を味わわせる。」「個人の役割を理解させ、集団との連帯意識を高める。」また「保護者や地域の人々に学校への理解や関心を増してもらう。」というものです。

私は、運動会本番はもとより、当日までの取組がとても大切だと考えています。それは、テーマに掲げるあきらめることのない「協力」という心です。もちろん、運動・スポーツには勝ち負けがあり、それは大切な要素です。しかし、子どもたちは、スポーツの楽しみ、価値はそれだけではないことがわかり始めています。私は運動会を通して、子どもたちに芽生えてきた「たゆまぬ努力、フェアプレー、スポーツmanship」などをさらに養うことができたらと思っています。

保護者の皆様には、事前のテント設営、運動会終了後の片付けに多くの方のご協力をいただき、心より感謝申し上げます。引き続き、本校の教育活動に、ご支援・ご協力いただければ幸いです。何とぞよろしくお願ひします。





テントの設営等へのご協力ありがとうございました。

20-20-20ルール～令和7年度 学校保健委員会～

10月30日（木）、PTA本会役員・保育環境部員、学校医にご出席いただき、令和7年度学校保健委員会を開催しました。学校保健委員会とは、子どもの“こころ”と“からだ”的健康について、学校と家庭、地域の三者が、意見を交換し合い考え、学校保健の推進的役割を担うものです。

今回は、定期健康診断・体力テストの結果や児童保健委員会の取組、食育の取組について報告、話し合いが行われました。

眼科校医の田辺先生からは「学童の近視について」という演題で、「必然的にスマホ・タブレットを使う時代となり、子どもも大人も近視が増えている。近視パンデミックと言える緊急事態である。低学年の発症ほど近視が強くなる。小児近視の低年齢化と強度化の対策をしなければならない。近視の合併症としては、網膜剥離や緑内障等があげられる。だからこそ、**20分に1回、20秒、20フィート（約6メートル）、離れたところを見る**「20-20-20ルール」が必要である。」というお話をいただきました。

内科校医の杉田先生からは、近年の子どもの身体や本校児童の実態をもとに「日本人の98%がビタミンDが足りない。カルシウムの吸収を助ける働きをするのがビタミンDであるので、骨の質が悪くなっている。鉄筋コンクリートに例えると、骨密度はコンクリートの部分であり、芯である鉄筋の部分の質が悪くなっているということである。ビタミンDは、食生活を改善し、魚やキノコから摂るしかない。」とご助言がありました。